

女子教育所感

文學博士

井上哲次郎氏談

▲近頃の新聞に盲目の法學士が其妻に捨てられたと云ふ事があつたが實に言語同斷な事である。之に比較すると先頃の九段坂下の立ん坊の女房と云ふのは見上げたものだが、併し是も時勢思潮の混亂より來るので仕方がない。

▲一体舊幕時代の社會制度が破れて個人主義の西洋思想が單に議論として輸入されて社會の制度が個人本位制にならない中に早くも其實現を試みんとする傾向が出て來たものだから種々に衝突が起る様になつたのである。

▲西洋では本來が個人本位であるから社會の制度は其に都合の好い様に仕組んであり、従つて其弊害を防ぐ途も夫々あるのに、我國の歐醉家は此邊

の察しがなく妄りに其思想を實現し様としたのは誤りである。

二

▲又近來女子の煩悶と云ふことが屢々云はれる様であるが是も亦時勢思潮の産物であると思ふ。其源因は種々あるだらうけれど、第一に世の生活が漸次高まると共に世渡りが益々困難となつて行く従つて各自の目的が容易に達せらるゝ見込がなくなつて來たと云ふと、第二には諸學校の入学迄に競争がはげしくて餘程優秀なもの外は皆落第の不幸に遇ひ善後の方針に窮する仕末であると云ふこと今一つは神經的な小説が青年男女の興奮して居る神經に投じて横行する爲めに之を讀む男女が益々神經質になつて其思想も其行爲も益々沈み益々落ると云ふ譯合で遂に思ひ設けぬ墮落の深淵に陥らしむると云ふ様な次第である。

▲是は誠に憂ふ可きものであるが去りとして是れは一朝一夕に救ひ得らる可きものでないから矢張人生觀とか處生の覺悟とか云ふ方面から今少し深く今少し力強く智的修養をしなければいけないと思ふ夫れに世の傾向を見るに人々の頭が此混亂な思想に倦きて何か力強き或一物を求めんとして居ることは確かなもので西洋などでもヘツケルの様な人は彼の嚴然として社界制度の中に瀰蔓して居る耶蘇教の範圍を脱して超然として極めて自由な議論をして居る。是に因て見るに西洋でも日本でも從來の宗教に満足せずして、より以上の或一物を求めんとして居ることは確かである。

▲併し之に達するのには先づ第一に現在學校で行つて居る修身科の教授を大に改良しなければならぬ、現在の修身科教授は如何にも單純で唯乾燥

無味な理屈いぢりをして居るばかりであるから逆も此人間の靈性を感奮興起させる様な事は出来な否寧ろ眠むけを催ふす底のものである。

▲是に就て思ひ出すことがある、聞く所に因れば本年女子高等師範の卒業生が八十余人あつて、其中十一人は洗禮を受けた人だそをだ是は云ひ振らした人が宗教の教略上何か爲めにする所があつて云つたのだらうと思ふが併し兎も角も女子高等師範とも云れる處の卒業生が基督に依るに非ざれば安心を得ないなどと云ふのは如何にも殘念な事である。是で見ても學校の修身科教授は大に改良す可き必要に迫られて居ると思ふ。吾輩は日本唯一の最高女學校たる女子高等師範學校は確かに現在の宗教などに依頼せずとも充分力強き修養を興へることが出来る處の設備が整つて居ると思ふ。

然るに此始末とは遺憾なこである。

▲そこで其改良方法にも種々あるだらうと思ふが先第一には目下の様な單純な修身科教授に附するに大に佛教の所謂莊嚴を以てすることである換言すれば繪畫、音樂、等の美術を應用して盛んに情意の直接陶冶を勉めなければならぬと思ふ。古偉人の書なども随分よいと思ふ現在でさへ兩陛下の肖像があるが之に加ふるに古偉人の肖像も大に利用す可きものだと思ふ。そして教授の間などに音樂を利用したならば、確かに効力があるに違ひない。

▲尙又講堂の建築が現在のは頗る殺風景である斯んなことで何うして偉大な感化を與へることが出来るか。窓なども色硝子を加へ模様など付けて大に飾らなければ駄目だと思ふ。

四

▲彼耶蘇教を見ても分ることだと思ふ。舊教は新教に較べると種々な莊嚴が多い、從つて能く信徒を統一して行くし其感化力も多いが新教の方は其云ふ事の少い丈に餘り自由過ぎて却つて感化力が少ない様である。

女子教育と人生觀

文學士 三輪田元道氏談

從來の女子教育は今日に於て種々改良を施すの必要あらん。殊に其根本問題として吾人は今日以後の女子は穩健なる人生觀を有する様修養せんことを望む。事少しく哲學めけども方今の女子一般に之なきが爲めに人類としては幸福なる生活を完ふする能はず。他人に對する交際も子女に對する態度も不都合なる事多し。然のみならず近來教育あ